



パナソニック松愛会
 京 都 支 部
 2011年7月
 第 9 号
 発行人 北村 八郎
 TEL/FAX:075-314-2489

京都支部ホームページ <http://www.shoai.ne.jp/kyoto/>

148名が年次総会に出席

満場一致で議案を承認

季節外れの台風が心配された5月30日(月)に国立京都国際会館「さくらの間」で148名の参加のもと、松愛会京都支部総会を開催しました。

第1部の総会では、今年も行政地区ごとに着席し、16名の物故者の方と東日本地震の犠牲者の方に黙祷の後、議事は北村支部長のあいさつで始まりました。

続いて、松愛会本部の北川事務局長のあいさつの後、特色ある活動の必要性について説かれました。社長メッセージ、全国総会報告の後、2010年度は皆様のご協力により予定の活動を

無事終えられたことが報告されました。

次に、今年度の役員選任と新旧役員の紹介がありました。今年度は滝、平居、鎌田、山本の4氏が退任し、高橋、萩原、照井、舌、徳野地区委員の5氏が就任しました。

支部長から今年度の活動方針が示され、会員の皆様にきめ細かで、より充実した活動を行うことや65歳節目懇談会等の新たな取り組みが提案されました。

続いて2011年度予算計画も提起され、今年度の活動方針は満場一致で承認されました。同好会の活動紹介の後、長年「その時松下の歴史が動いた」松下幸之助に学ぶ勉強会」の同好会運営に携わられ、このほど新勉強会へバトンタッチされた波多野元三郎様に京都支部から感謝状が贈呈されました。松愛会のスローガンを唱和後、第1部は終



退任4委員のあいさつ

えしました。

今年も会員の作品展が開催され、絵手紙、絵画、手芸などが展示され、大勢の方が熱心に見入っていました。

パナホーム八日市工場を見学

3月12日(土)にパナホーム様のご厚意でパナホーム八日市工場を見学しました。

前日に東日本大震災があり、開催が危ぶまれましたが、パナホーム様の準備状況や会員様の参加状況がかんがみて実施されました。今回は77名の方がバス

2台で9時45分に京都駅八条口の新・都ホテルから出発し、八日市へ向かいました。

パナホーム八日市工場に到着後は、まず製品試験所の見学です。風雨や炎天下での過酷な環境下でさまざまな試験が繰り返され、合格品だけがパナホーム製品として出荷され、皆さんは

博様の乾杯の音頭で懇親会がスタートしました。各テーブルでは親しい人達と酒を酌み交わしながら楽しく歓談し、いつまでも話が尽きませんでした。波多野元三郎氏の締めで閉会となり、またの再会を誓って国立京都国際会館を後にしました。

思いづくまに

氏神様の神幸祭で袴を着て行列に参加しました。沿道には行列を見に大勢の人たちが出てこられ、足の痛みを我慢しながら背筋を伸ばして

熱心に説明員の話に耳を傾けていました。

昼から外壁などを作る製造工程を見学し、工場内の自動化ラインではお客様の要望に応じて、次々に外壁がつくられて全国に発送されていきます。パナホームの外壁パネルは火災にも耐え、しかも外壁の内側には

熱も伝えず断熱性もいよです。厳重な品質管理でパナホームを支える素材が量産される工程を目の当たりにすることができました。

次に信長の館、安土城考古博物館へ行き、信長の館では復元された色鮮やかな安土城が見ものでした。(2ページ最上段に続く)

歩きました。祭りの行事自体は子供のころから全く変わりますが、祭りに参加する人たちが祭りに対する見方や対応は随分と変化してきたように思えます。子供のころは、祭りには、ご馳走が用意されて親戚が集まり、小遣いをもらって縁日に出かけ、友達と花火などと楽しい思い出がよみがえります。最近では、お祭りでも氏神様にお参りにも出かけず、食卓は普段の料理で全く関心を示さない人たちが増えてきています。個人主義の横行で、自分だけよければ、他人のことはどうでもよいという人種が増えてきていることの反映でしょうが、日本人としては血縁・地縁を大事にし、周りと共生することに関心を示して一緒に楽しむことを再度見直してはどうかと思う昨今です。(西脇 武和)